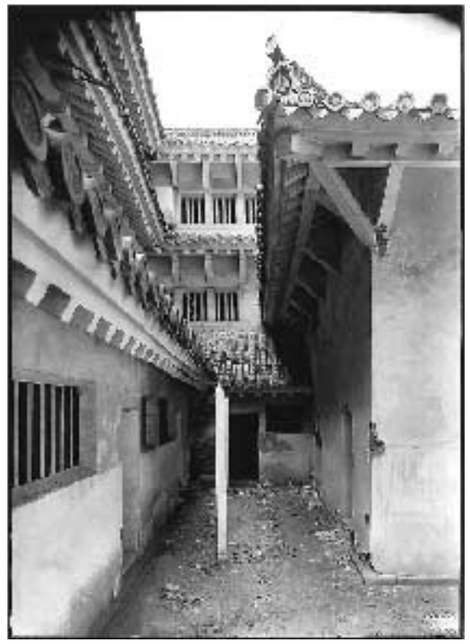
SHIRO 城 FUMI 踏

姫路市立城郭研究室ニュース「城踏」No.29　2001年９月１日
編集・発行；姫路市立城郭研究室
〒670-0012　姫路市本町68-258　日本城郭研究ｾﾝﾀｰ内
TEL　0792-89-4877　FAX　0792-89-4890
URL　http://www.city.himeji.hyogo.jp/jyokakuken/

ガラスの“中年”

「姫路城昭和の修理」記録写真について



▲乾板の箱。この中に入れて保存してある

その箱の中はこのように◆

「プロジェクトＸ」（2001.9.11、NHK)が放送されると、姫路城に関する問合せが少し増えました。番組でとり上げられた大柱について知りたいという方、自分の肉親があの工事に携わっていたことに誇りを感じて事実確認をしようという方が見受けられました。城郭研究室ではこの番組制作に資料を提供する形で協力しました。ですから、番組を通じて姫路城に関心を持ってくれた人がいたということは、うれしいことです。同時に、人との関わりが少しは匂わないと「肩書」だけでは「勝負」ができなくなっていることも感じました。

ところで、当研究室が番組に提供した資料は「昭和の修理工事」に関わる写真、図面、映像でした。このうち写真については研究室のホームページ上で一部紹介していますが、全体で4000枚に及ぶ写真が保管されています（※）。それらは工事の行われた1960年代当時、「工事前・解体・組立・竣工」という作業工程に沿って細かく記録撮影されていたものの一部です。

本号では、その写真について紹介します。

Remember？「築城400年」①

◆写真の一例：「台所櫓南西隅より北を見る」

「姫路城昭和の修理」写真は、ガラス乾板に撮影されています。それらの目録はすでに西村吉一氏によって作成されており、それをもとに整理をしています。

しかしここにきて問題が生じてきています。ガラス乾板に塗布された乳剤膜面の劣化が著しく進んでいることです。１枚１枚専門家にチェックしてもらう必要がでてきました。そこで作業の要領やコストを調べる意味で試しに専門業者にサンプルをお願いしたところ、左のような写真がたまたま含まれていました。

外見的には部分的に膜面の浮きが見られていたものです。ところが包紙を剥がすと膜面が粉々に破れてしまったのです。つまり、表面的な観察では判断不可能な予想以上の損傷があるということがわかったのです。

左の写真の場合、乾板としては完全に元に戻ることはありません。サンプルのつもりで引き受けたものの、本格的な修復をする羽目になった業者も大変だったでしょう。

しかし最近のデジタル技術を利用すると、画像データとしては復元が可能でした。前頁の写真はその成果です。破れた膜面を１枚づつスキャニングして、パズルのように絵を嵌めていくのです。「損して得とれ」ではないでしょうが、　かえって者の技術力は証明されました。

城郭研究室では、そうした補修と保存処置と同時に、画像のデジタルデータ化を進めようと考えています。

◆乾板収納用の箱。前頁の箱から出して、専用の少数枚収納箱（写真下）に移しています。その際、乾板はたとうエンベロップに包みます。さらに多数枚収納箱に入れます。振動も吸収してくれます。

4000枚にも及ぶ写真乾板の保存処置には莫大な費用がかかります。昨今の経済状況では、一度にまとめて処置できるとは思えませんが、できる範囲ですこしずつでも処置を進めていくつもりです。次の根本修理には不可欠になることは間違いないこれらの資料一状態が良ければ「築城800年」には、国宝に指定されているかもしれません。